

## 令和7年度 地域連携推進会議 議事録

1、開催日時	令和7年3月16日（月） 14：00～15：45	
2、開催場所	地域生活支援拠点 愛光園 多目的室	
3、出席者	愛光園家族会会長	愛光園施設長
(11名の出席)	かざぐるま GH ご利用者ご家族代表	愛光園課長兼管理者
	清水町第四の2町内会 会長	かざぐるま管理者（係長）
	湯沢市福祉課 障がい福祉班（主任）	愛光園サービス管理責任者（主任）
	愛光園ご利用者代表	かざぐるま GH サービス管理責任者（主任）
	かざぐるま GH ご利用者代表（欠席）	愛光園サービス管理責任者（主任）

### 1、開会の挨拶

施設長より、出席者の皆さまへ挨拶

### 2、出席者の紹介

地域連携推進会議の構成メンバーをそれぞれ紹介

### 3、地域連携推進会議の目的・役割

別添の資料1を参照

### 4、施設概要説明

パンフレットをもとに愛光園拠点の概要を説明

### 5、施設見学

構成メンバー全員で、愛光園拠点を見学

### 6、議 題

#### 1) 施設やサービスの透明性・質の確保

#### (愛光園サービス管理責任者（副主任）よりご利用者の日常生活状況を報告)

愛光園では、施設入所支援の利用者45名、生活介護利用者（入所・通所）平均50名ほどの方にご利用いただいています。また、短期入所（3名）や湯沢市からの委託事業として地域生活支援事業（日中一時支援）も行っています。現在、25歳から96歳までの幅広い年齢の方が生活されており、障害の種類や状態もさまざまです。

生活面では、食事・入浴・リハビリなどの基本的な生活支援を提供し、栄養士による食事提供や理学療法士によるリハビリを行っています。入浴は週2回以上実施し、利用者の状態に応じた方法で対応しています。

また、フロア活動や施設行事、地域行事への参加、創作活動や生産活動などを通して、生活の楽しみや社会参加の機会を大切にしています。ご利用者やご家族との対話を重視し、一人ひとりの特性に応じて安心・安全な生活を送る

ことができるよう、多職種が連携して支援に取り組んでいます。

### （GH サービス管理責任者（主任）よりご利用者の日常生活状況を報告）

現在 10 名が入居し、毎日 4 名が就労継続支援 B 型事業所、残り 6 名が生活介護事業所へ通所しています。外部サービス型として運営しており、入浴・静養等の支援はばあとなあへのヘルパー事業所が対応しています。

日曜日は食事提供がなく、利用者は近隣のグランマート等へ自力または車で買い物し、喫茶ふれんどりの昼食も楽しみの一つとなっています。土日・長期休暇（ゴールデンウィーク・正月等）はほぼ全員が帰省しています。

年間行事は毎年 4 月に利用者の意向を聴取して計画しています。今年度は会食 4 回のほか、柳沢弁当屋での昼食・くらのクリスマスケーキ注文・ポッチャゲーム・ビンゴゲームを実施しています。令和 8 年 4 月には花見を計画中。

開所から 12 年が経過し、平均年齢は 42.6 歳に上昇。家族の高齢化に伴い、財産管理・生命保険・各種制度活用の検討が増えており、家族の意向に沿った支援を継続していく方針です。

## 経営状況の報告

施設長より

愛光園拠点全体として、ここ数年は継続して**黒字経営**を維持。グループホーム単体では人件費の高さから単独運営は困難だが、地域・利用者に必要なサービスとして全体収支で支えている。

人件費比率は法人全体で最高 78%に達し、愛光園も 7 割超。一般的な社会福祉法人の健全水準

（63～65%）を上回るが、「福祉において職員は最重要資源」との方針のもと、人的投資を優先しつつ黒字を維持している。

喫茶ふれんどりは当初収益が低調だったが、昨年より地域認知が向上し、純粋な収益が **1,000 万円超**に達した。

今後も商品開発と利用者が働きやすい環境整備を継続する。

## 2) 施設と地域との連携

・地域行事のご案内

愛光園サービス管理責任者（主任）より

昨年は秋祭りと 11 月の防災フェスを開催し、地域住民が多数参加。来年度も同規模での開催を予定しており、地域の協力を求めた。また、昨年 5 月 22 日には両神地区を対象に湯沢市の水害想定避難訓練を実施した。今後も継続していく意向。

## 3) ご利用者の権利擁護

・苦情、事故、ヒヤリハットの報告

愛光園課長より、令和 7 年度地域生活支援拠点愛光園のヒヤリハット・事故報告書一覧表（資料 2）を提示。令和 8 年 3 月 16 日現在の件数は、ヒヤリハット 58 件、事故報告 44 件（うち行政報告 1 件）となっている。

（資料 3）として、事故報告（行政報告事案）：1 件

苦情報告：1 件

それぞれ、説明する。

## 7、意見交換

- ・施設見学した際に受けた印象や気づいた点
- ・施設の運営上の工夫や改善点について

参加者からは以下の意見・感想が寄せられた。

- 市障がい福祉課職員より、今回施設内を見学しながら、施設運営や様々な取組について説明を受けることができ、大変有意義な機会であったとの感想があった。  
経営面において厳しい状況がある中でも、利用者の生活をより良くするための工夫や設備の整備が行われていることが理解できたとのことであった。  
また、利用者を支える職員の働きやすさや負担軽減にも配慮した設備や環境づくりが進められている様子を見て、こうした取組が持続可能な事業運営につながるのではないかと感じたとの意見があった。  
見学の中では、利用者同士が行き交う場面で多くの笑顔が見られ、楽しそうに生活や活動をしている様子が印象的であり、その姿が施設運営の一つの成果を示しているのではないかと感じたとの感想が述べられた。  
最後に、今回の見学と説明の機会に対して感謝の言葉が述べられた。
- グループホーム入居者のご家族より、同法人の職員でもあるが今回は家族の立場として参加したとの前置きのうえ、施設行事とグループホーム入居者の参加状況について質問があった。  
隣接する施設（愛光園とかさぐるま）では様々な行事が行われているが、グループホーム入居者はそれらの行事に参加しているのかとの質問があった。これに対し施設側より、秋祭りや防災フェスなどの大きな行事については、隣接施設の利用者とグループホーム入居者が一緒に参加することもあり、双方から参加する形で実施する場合もあるとの説明があった。  
さらには、帰省の調整と行事予定の共有についてご意見があった。  
現在、帰省の連絡を急に行うことはあるが、施設で行事（秋まつりや防災フェス等）が予定されている場合、事前に分かっていたら帰省日程を調整することができるとのことであった。  
同じ法人の関係者であれば行事の情報を耳にすることもあるが、一般の家族は行事予定を把握できないため、知らずに帰省させてしまい、結果として行事に参加できないこともあるとのことであった。  
そのため、行事の予定が分からないまま帰省させてしまうと、利用者が行事に参加できないこともあるため、可能であれば月ごとの予定などを知らせてもらえるとよいとの意見があった。  
また、利用者本人にとっても行事に参加することは楽しみの一つであり、可能であれば参加できるよう配慮できるとよいのではないかと意見が示された。  
「将来的に ADL 低下が進んだ場合の支援体制」について質問があり、施設長は「65 歳以降も本人の選択を優先し、介護保険との併用や外部ヘルパー派遣、必要に応じた入所施設への移行など選択肢を幅広く確保している。年齢による縦割りはしない」と回答。
- 町内会長からイベントについて、かつての集まりの形を復活させることへの期待が示され、施設側も前向きに受け止めた。  
また、入浴機材等の設備投資規模と、それを支える職員への敬意が複数の参加者から表明された。

- 愛光園家族会会長より、施設の説明を聞き理解が深まったとの意見があった。自身のご家族も当施設を利用しており、日頃から職員が一生懸命支援していることを感じているとのことであった。  
一方で、虐待に関する話題については、どのような理由であってもあってはならないことであり、引き続き職員への注意喚起や防止に努めてほしいとの意見があった。  
また、施設の雰囲気は良く、職員が利用者のために努力している様子が伝わり、全体として良い環境であるとの評価があった。

## 8、閉会の挨拶

施設長より、「常に開かれた施設」を目指す姿勢を強調し、年 1 回の本会議に限らず、電話や訪問による随時交流の場を設ける意向を示した。

外部からの視点が施設の気づきにつながるとして、引き続き地域・家族との連携協力を要請した。

本会議の議事録は氏名を伏せた形で愛光園ホームページに掲載予定。

令和 7 年度 地域連携推進会議はこれをもって閉会した。